

花言葉は悲劇のサイン

◎登場人物

姫川 兎子（27）ひめかわ うさこ

石家 主（39）せきや つかさ

一休 零（39）ひとやすみ ぜろ

小南 渡入（37）こみなみ わたる

副日 愛鈴（30）そえび あいり

森阿茶 讓（31）もりあさ じょう

## ○序章

舞台は背面に黒バラの絵が描かれた抽象空間。  
舞台中央にはホワイトボード。  
基本的に場面は持ち運び可能な椅子を動かして行う。  
舞台は幕によって前面と全体に仕切られている。  
舞台前面、石家にスポットが当たる。石家、椅子に座っている。横に男が倒れている。

石家 えゝ名探偵、皆さん名探偵と言えば誰を想像しますか？（古畑任三郎のテーマが流れ始める。）あゝシャーロックホームズ？エルキュールポアロ？ エラリークイーン？ んゝ日本にも様々な探偵がいます。あゝ明智小五郎？ 金田一耕介？ んゝ漫画の世界なんかも入ると、江戸川コナン？ 金田一一？ たくさんの名探偵が世の中にはあふれかえっています。えゝ今日を機にこれらすべての名前を忘れてしまってください。そして一人だけ、名探偵の名前を覚えてお帰り下さい。そうこの私、んゝ石家（充分に間をとって）主。

名前を言い終わると同時に後ろからやって来た姫川にピコピコハンマー（以下ピコハン）で頭を殴られ、音楽が小さくなり、全体が明るくなる。

姫川 いきなり他の名探偵パクってんじやねえよ！  
石家 だってオリジナルとか面倒くさいじゃないか？  
姫川 そんなことばっか言ってるからいつまでたっても有名になれないの！ とりあえず立て！  
石家 面倒くさい。

姫川、もう一度ピコハンで殴る。

姫川 次はグーで殴るよ！  
石家 わかった、わかった。ちゃんとやる。  
姫川 最初からやれよ。

石家、ポケットからカンペを取り出す。

石家 えゝと……。  
姫川 挨拶くらい覚えてこいよ。

石家 面倒くさい。  
姫川 古畑のモノマネは一週間も練習してたくせに。しかも似てねえし。

石家、咳払い。

石家 皆さんご来場ありがとうございます。えゝ細かい説明とかはこの紙に書いてあるんで読んでおいてください。

石家、カンペを客の方に向ける。

姫川 見えるわけないだろ！

石家 あっ見えないですか。じゃあこっちの方から順番に回してください……。

石家、カンペを客に回そうとする。

姫川、石家をピコハンで殴る。

姫川 もう私がやる！

姫川、カンペを奪い、一瞬目を通してポケットにしまふ。

石家 もう覚えたの？ さっすが！

姫川 皆さん申し訳ありません。このゴミ探偵に代わって美人お嬢様刑事の姫川兔子が挨拶させていただきます。本日は劇団（以下、注意事項を述べる）。

姫川、挨拶を終え、お辞儀をする。暗転。

## ○第一章

舞台前面。

姫川と森阿茶。椅子に座りながら。

舞台上に男が倒れている。（人形でも可。）

森阿茶 花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに

姫川 小野小町？

森阿茶 うん。

姫川 それがどうしたの？

森阿茶 兎子と僕が初めて会った日を覚えているかい？

姫川 全然。

森阿茶 （笑って）兎子らしいな。

姫川 でしょ？

森阿茶 小野小町は花の色香があせていくことを嘆いていたけれど、僕はそうは思わない。枯れるからこそ美しい。悲劇が待っているから美しい。恋もそういうものだと思わない？

姫川 どうしたの急に？

森阿茶 いや、今度やるドラマなんだけどね。癌と戦う夫が妻に頼むんだよ。殺してくれて。俺の病気は治らない。ならばいっそこの苦痛から開放されて君の心の中で生き続けたいって。

姫川 で？ 妻はどうしたの？

森阿茶 妻は夫の言うとおりにしたんだ。安楽死させてやった。

姫川 そっか。

森阿茶 もし兎子が、その妻の立場だったらどうする？ 僕を殺す？

姫川 即殺す。

森阿茶 （再び笑って）兎子らしいな。

姫川 でしょ？

森阿茶 悩まない？

姫川 ちよっと迷うかも。でも迷ってる間相手が苦しむのは嫌だからやっぱ即殺す。

森阿茶 そうか。

姫川 でも今はまだ、譲の近くにいたい。物理的にね。馬鹿みたいに熱い演技談義とか小野小町がどーたらこーたらって話を聞いてたいじゃん。

森阿茶 君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る

2人、幕の後ろへ去る。

音楽。

姫川、幕から出てきて、倒れている男（死体）を覗き込む。

姫川 暑い。死ぬ。何これ！ エアコンつけて。

そこへ一休が入ってくる

姫川 あ、一休。おせーよ。

一休 相変わらずうさちゃんは口が悪い。直属の上司にくらい敬語を使ったらどうなんだ？

姫川 それより先に遅れたことを謝れよ。

一休 うさちゃんが姫川財閥のお嬢様でなかったら今すぐ異動させるよ。またまただ。そんなこと言っちゃって。私のこと大好きな

姫川 またまたあ。そんなこと言っちゃって。私のこと大好きなくせに？

一休 えへへへへ。わかる？

姫川 あ、その顔きもい。

一休 え？

姫川 こんなんになつてた。(姫川変顔)

一休 うそだあ、俺はそんなに不細工じゃない！

姫川 はいはい……で、遅れた理由は？

一休 すまん、すまん。ちよつとキャバクラでのツケがたまり過ぎちゃつてな。その精算をしてたんだ。いやあ急にパラダイスの彩ちゃんに呼び出されちゃつてさあ。

姫川 ……一休の場合冗談じゃないから泣けてくる。  
一休 まあまあ。それよりどうなんだこれは？

一休、死体を覗き込む。

一休 あああああああああつ！

姫川 なに？

一休 こいつはお前、俳優の上原優也じゃねえか！

姫川 そう。

一休 割と好きだったのになあ。

姫川 確か同年だっけ？

一休 ああ、今年で39歳。人生まだまだこれからだったのになあ。

(泣く。)

姫川 いちいち感情移入すんな！(ピコハンで一休を叩く。)

一休 状況は？

姫川 ……死亡推定時刻は3日前の深夜2時過ぎ。自宅マンションで首を吊つて死亡。第一発見者は彼の交際相手の女性。上原は3日前から休暇を取っていて、その女性と旅行に行く予定だったらしい。でも急に「行けなくなった。」ってメールが入って旅行はキャンセル。その後連絡がつかなくなって、気になった彼女が上原の部屋を訪れたところ、帰らぬ人になっていた。

一休 彼女と旅行？ ふざけたまねしやがって。旅行なんつたら毎晩毎晩お楽しみじゃねえか！

姫川 さっきまで泣いてたくせに。こんな顔して。(変顔。)  
一休 そんな顔してない！俺はモテる男は嫌いだ。あっ誤解  
されないように言っておくが、決して僻みじゃないぞ。俺もまた  
県警一モテる男だからな。

姫川 ないない。

一休 信じてないな？この間だってなあ……。

姫川 そんなことより！どう思う？

一休 これか？自殺だろ？どうみても。

姫川 本当に？僻んでるからでなく？

一休 僻んでねえっての！首吊って自殺だろ？それしかな

い！

姫川 なんか引つかかるんだけどなあ？

一休 それに思い出したぜ？上原のブログ！

姫川 ブログ？

一休 ああ、ちょうどその旅行に行く前だったはずだ。芝居につ

いての悩みとか、恋愛についての悩みとか書いてあった気がする

ぞ。

姫川 それで思い悩んで自殺を？

一休 それだけじゃねえ。上原は1ヶ月前くらいに父を亡くして

いる。精神的に不安定だったんじゃないのか？

姫川 随分芸能通じゃん？

一休 まあな。俺は県警一のテレビっ子だからな。

姫川 それ何も嬉しくない。

一休 まあとにかくだ。自殺をするに足る理由は十分にあるって

ことだ。

姫川 ……じゃあ何で遺書が無いわけ？

一休 発見されてないのか？

姫川 普通自殺するなら遺書とか書くでしょ？

一休 まあな。

姫川 それにもう1つ気になることが……。

一休 俺のことか？

姫川 (ピコハンで叩く) ……これ。

姫川 グラスを一休に見せる。

一休 それがどうした？

姫川 死体の下に転がってた。床は水浸し。びしょびしょ。

一休 首吊ろうとしたときにこぼしたんだろ？今から死ぬ人間

がわざわざ床を拭くまい。

姫川 今から死ぬ人間がグラスに水を入れる？

一休 ……確かに。

一休 ねっ。気になってきた？

一休 いや。

姫川 何で？

一休 たったそれだけの理由で警察が動けるかっての！ 解剖にも金がかかるし、第一他に犯人捜さにやならん事件は山ほどあるんだ。こんなばつと見で自殺と判断できる事件深追いするだけ無駄なんだよ！

姫川 でもっ！

一休 いいか、正義の心だけじゃ警察はやれねえんだよ！ 即座に犯人がわかる事件じゃなきゃ警察は動かない。それが嫌だったら警察辞めて探偵にでもなるんだな！

姫川 それは本心？ それとも建前？

一休 ……建前だよ！ いいか、いくらお嬢様でもお前は仮にも俺の部下だ。俺の言うことに従ってもらおう！ この件は自殺で決着！ 捜査終了だ！

姫川 ……と見せかけて？  
一休 個人的に捜査する分には構わん。勝手にしろ。

姫川、につこりと笑う。

姫川 見かけによらずいい人なんだから！ だから好きだよ！

一休 一休！（ピコハンでたたきまくる。）

一休 わーかった。わーかったからやめろ！

姫川、一休、男、去る。

舞台前面。

椅子に座っている副日と小南。

小南、雑誌を読みながら酒を飲んでいる。

小南 女流作家、赤宮ルイが返り咲き。ほーう。懐かしい名前だ

あ。おっ森阿茶譲、月9初主演決定かあ。最近ぐいぐいきてるな

あ。あつ俳優の上原優也が自殺？ まーた芸能人が自殺かあ。最

近多いねえ。嫌になっちゃう。

副日 先輩……。先輩はどう思いますか？

小南 何があ？

副日 その事件。

小南 赤宮ルイの返り咲き？ いやあ昔好きだったからうれしい

なあ。

副日 そうじゃなくて。



小南 ああ森阿茶讓？ 変な名前だよね。  
 副日 俳優の上原優也の自殺です。  
 小南 ああ上原優也ね。自殺とはびっくりだよねえ。今のびてき  
 てるときだったのねー。  
 副日 自殺だと思いますか？  
 小南 そー書いてあるし。  
 副日 記事に書いてあることをまず疑え。びっくり返せば大スク  
 ープだって教えてくれたの小南さんじゃないですか？  
 小南 そんなこと言ったっけ？  
 副日 言いましたよ。私、ジャーナリストとして渡入さんのこと  
 尊敬してるんですからね。  
 小南 尊敬……ね。(さびしそうに)……じゃあ何で、ジャーナリ  
 スト副日愛鈴は尊敬する小南渡入のいる「週刊ウエンズデー」の  
 記者を辞めてフリーになっちゃったのかなあ？  
 副日 それは……。  
 小南 それは？  
 副日 まあいいじゃないですか。その話は、それより事件です。  
 小南 そのために今日先輩に来てもらったんですから。  
 副日 上原優也の自殺？  
 副日 私、それは自殺じゃないと思うんです。  
 小南 ……遺書が無いから？ 動機が不明瞭だから？ グラスの  
 水がこぼれてたから？  
 副日 花が……届いてたからです。  
 小南 花？ フラワー？  
 副日 はい。  
 小南 どーゆーこと？  
 副日 殺される1週間前、上原の自宅マンションに花が届いてい  
 たんです。確か……サンダーソニア。上原はファンからのプレゼ  
 ントだと思って家に飾ってたみたいなんです。  
 小南 それが？  
 副日 「フローラルプランナー」って知ってますか？  
 小南 いや？  
 副日 都市伝説なんですけど、そういう殺し屋がいるそうです。  
 小南 「フローラルプランナー」って。ダサイねえ？ 花の計画  
 者？  
 副日 都市伝説なんてそんなもんです。  
 小南 で、今回の事件はそいつによる犯行だと？  
 副日 はい。都市伝説によると、「フローラルプランナー」は殺人  
 の前にターゲットに必ず花を送るそうなんです。  
 小南 眉唾モンだねえ。

副日　でも実際花が送られてきて、死んだ人間がたくさんいるんですよ！　そのほとんどが自殺とか事故とかで処理されてるんです！　やくざの人とかに取材もしたんですけど、裏の世界では結構名前が知れてて、史上最強の殺し屋って言われてるんです！　小南　ふうん。史上最強の殺し屋ねえ。確かに死体と関係性の無い人物が自殺や事故に見せかけて人を殺したなんて警察も思わないから確かにいたら史上最強だあ。

副日　だから今回の事件も。

小南　キミはあ。ツチノコっていると思う？

副日　何ですかいきなり。

小南　ネッシーっていると思う？

副日　ツチノコもネッシーもいませんよ。

小南　それと同じこと。「フローラルプランナー」もいませーん。副日　……でも、

小南　副日君はあ昔つから危なめの事件を追いつぎなんだよお。キミの取材対象は裏社会ばーっかり。グルメとか、旅とかさあ。もーっと穏やかなものに転向したほうがいいよ。キミは女の子なんだから。

副日　……先輩、先輩までそんなこというんですか。

小南　え？

副日　失礼します。先輩は私のこと、わかってくれてると思ったのに。

副日、席を立つ。

酒を一気に飲む小南。

小南　わかってないのはキミだよ。副日君。

小南、去る。

## ○第二章

舞台前面、森阿茶にスポットが当たる。

「トルコ行進曲」が流れる。

森阿茶　ふざけるなあああ！　娘の未来を奪った男が！　15年も

たたんうちにまた元の生活を手に入れることができるんだぞ！  
そんなことが許されると思うか！　俺は正しい行いをした。法が

やつを裁かぬなら、神がやつを裁かぬなら、やつを裁けるのはこの俺しかない。

幕が開く。（舞台の全体が見える）

床には造花（薔薇・黒百合）が散らばっている。

姫川の自宅。

TVを見ながらくつろぐ石家。

そこへ姫川が入ってくる。

石家　おうワトソン君。

姫川　姫川兔子だったの。

石家　知っている。

姫川　知ってるなら姫川様か兔子お嬢様って呼べよ。

石家　面倒くさい。文句を言うな。探偵の助手はワトソン君だと相場は決まっている。

姫川　あんたはうちの庭師でしょうが！

石家　違う。私は探偵だ。いや名探偵だ。

姫川　パパが庭師として雇ったんだから庭師でしょうが！

石家　しかしそのパパが5年前に亡くなったから私は探偵になったのだ。

姫川　意味わかんないから！　ほらっそこどきなさい！

姫川、ピコハンで石家を椅子からどかす。

仕方なく反対の椅子に座る石家。

石家　全く庭師使いが荒い。

姫川　そーゆーことは庭師として働いてから言え。

石家　お父様が5年前に死んでワトソン君の兄が家を継ぐまでは庭師として働いていた。君の兄は庭に興味が無いらしい。雑草が

ぼーぼー生えていても文句一つ言わん。

姫川　本来ならあんたクビだったっーの。

石家　まあ仕方あるまい。キミには私の力が必要なようだからな。

姫川　その言い方、むかつく。

石家　で、今回は何かな？

姫川　え？

石家　ワトソン君の機嫌が悪い時は大抵、彼氏と喧嘩をしたときか、私に頼みごとをせねばならないときだ。はじめて私がキミに事件の相談を受けた時もキミは機嫌が悪かった。

姫川　やっぱむかつく。いー。（変顔）

石家　TV。

姫川 え？

石家 キミの彼氏が出ている。今日のドラマの犯人役のようなだ。  
姫川 あ。本当だ。

石家 ……彼氏と喧嘩した時ならば、キミはすぐさまTVを消す  
だろう。「こんなやつ顔見たくない！」と言ってな。それをし  
ないということは今日キミは私に事件について相談があるとい  
うことだ。今日は何だね？

姫川 いー！（変顔）

石家 早く言いたまえ。私もそんなに暇ではない。

姫川 ウソつけ！

石家 いいから。さ、話すんだ。

姫川 ちよつと待って。今日は一休も呼んでるから。

石家 あからさまにいやそうな顔をする。

石家 なぜ？

姫川 この間たまたま一休に石家の話したら、妙に食いついてき  
て。やっぱ知り合いだったんだ。

石家 知り合いというほどのものではない。

姫川 昔の同志とか？

石家 やつが来るのか……。面倒くさいな。

チャイムの音がする。

姫川 あっ来たみたい。

姫川、出て行こうとする。

石家 庭師はいるのに執事のひとりもない豪邸というのも珍し  
い。

姫川 兄が全員クビにしたから。経費削減。あんたも役に立たな  
きゃすぐに切るよ。私が。

石家 ワトソンに首根っこをつかまれているホームズというのも  
情けの無い話だ。

姫川 石家らしいって。

姫川 出て行く。

幕が閉まり舞台前面。

小南と森阿茶、椅子に座る。

小南、小刻みに震えている。

小南 今度の、月9のド、ドラマでは、5人の女性と付き合うという、プレイボーイを演じる、わけですが、プレイベートでそんなことに、なったらどうし、どうしますか？

森阿茶 あのと大丈夫ですか？ 緊張してらっしゃるんですか？

小南 い、いや。そういう、わけでは……。あの、僕、これがなにと駄目なもので。(酒を飲むモーション)

森阿茶 ああ。どうぞどうぞ。飲んでください。

小南 いや、しか、しかし、仕事の席で。

森阿茶 このままインタビュが進まないよりいいと思いますよ。

飲んじやえ飲んじやえ！

小南 で、では、お言、葉に甘えて。

小南震える手で酒を取り出し、ぐいと飲む。  
以下両名終始笑顔。

森阿茶 ど、どうですか？

小南 失礼しましたあ。それじゃあインタビュー再開したいと思います。  
います。じゃあさっきの続きからあ。

森阿茶 すごい変わりよう。

小南 今度の月9ドラマでは、5人の女性と付き合うという、プレイボーイを演じるわけですが、プレイベートでそんなことになったらどうしますかあ？

森阿茶 ばれると思います。

小南 ばれる？

森阿茶 そう、普通に。違う名前呼んじやうと思います。うっかりミスと思って。うっかりミス。八兵衛かつ！ っ。ははははは。

小南 ははははははは。森阿茶さんって付き合っても怒らなそうですよね。

森阿茶 ああ。確かに。相手がすぐ怒っていると冷めてしまうタイプなんですよ。「おおっそんな顔して怒るんだ。」みたいな。

小南 冷静！ 冷静！

森阿茶 小南さんは彼女と喧嘩したりしないんですか？

小南 昔の彼女ですけど、仕事が忙しいと「本当に私のこと好きなの？」って怒られたりとか……。

森阿茶 「私のこと好きなの？」っていう女性はかわいいじゃないですか？

小南 大人！ 僕より年下なのに！ 僕なんか仕事のことわかってくれる人じゃないと無理ですもん。

森阿茶 でもじゃあそんな風に怒られたらどうするんですか？

小南 うゝん。  
森阿茶 やっぱりゝ、好きだ！ 好きだ！  
小南 そんなの言えません。  
森阿茶 好きなんだゝ！ サランヘヨゝ！ ちゅきだからゝ！  
チュパカブラゝ！  
小南 テンションがおかしいですよお！

笑いあう兩名。

小南 じゃあ今後はどういう俳優さんになっしていきたいと思いま  
すか？

森阿茶 えゝどういう俳優。そうだなゝ。やっぱり見たいと思っ  
てくれる人がいてくれないとやっていけないお仕事だとおもうの  
で。

小南 ドラマとか見ても本当に惹かれていきます。森阿茶さん  
てこうして話しているのと演技してるときじやイメージがぜん  
ぜん違うじゃないですかあ。だからあこう

森阿茶 またまたゝ。

小南 いや本当に、

森阿茶 いやいや、どうせスイッチオン「すごいですよねゝ！ 森  
阿茶さんて本当に！」

小南 いやちよっと

森阿茶 オフにすると「お疲れ様でしたゝ。」みたいな  
違いますゝ。そんなオンとオフありませゝん。

小南 一氣に酒を飲む。

小南 少なくとも僕は。

一瞬二人の空気が変わる。

森阿茶 僕も無いですよゝ。  
小南 役者さんだなあ森阿茶さんは！

笑いあう兩名。

2人が去り、幕が開く。  
石家の元に一休と姫川が来る。

一休 おおっ！ 久しぶりだな主！  
石家 ああ。

一休 まさかお前がこんなところで働いてるとはな。

姫川 ほとんど働いてないに等しいけど。

石家 そこうるさい。

一休 しかし元同僚が自分の部下の家で住み込みで働いてるとは、世間は狭いなあ。

姫川 やっぱり元同志？ どうりで推理力があるわけだ。

一休 主と俺は県警一の天才コンビとよくいわれたもんだ。

石・姫 いや無いだろ！

一休 俺は寂しかったんだぞ。10年前お前が刑事を辞めたときおそらく一番ショックを受けたのは俺だ。だがまあお前がいなくなったおかげで俺は出世し放題、女とやり放題だったわけだが。

石・姫 やり放題は関係ないだろ！

一休 しかし10年越しに再びお前の力を借りようというわけだ。

今回の事件は手を出さない女はいないこの俺にもどうにも手が出せない事件だな。

姫川 すけべ刑事。

石家 下ネタ親父。

一休 ふん！ 上等だ！ 俺から下ネタをとったら何も残らん。

姫川 そこは何か残せよ！

石家 さっさと話せ。面倒くさい。

一休 ……主も知ってると思うが、上原優也の事件。

石家 上原優也……。ああ俳優の。最近やたらTVでやってるな。ツイッターでの何気ない呟きまで取り上げられてて、全くマスコミってやつはいやになる。死んだ人間くらいそつとしいてやれってんだ。

一休 知っているなら話が早い。俺たちはアレを殺人じゃないかと疑っている。

石家 ほう。私もあの事件に関しては若干引っかけたところがある。しかし一休（以下石家が一休を呼ぶときは、いきなり、キミがそんなことを言い出すなんて今夜は雨か？）

姫川 一休は初め自殺と決めつけてた。

一休 仕方あるまい。警察なんてそんなもんだ。

石家 で、なぜ考えを改めて私の元に來たんだ？

一休 花だよ。

石家 花？

姫川 上原が殺される1週間前、マンションにサンダーソニアって花が届けられてた。

石家 それでか。ワトソン君。こいつはキミからその話を聞いた

途端に自分も捜査に乗り出すと言わなかったか？

姫川 たぶん。

石家 ワトソン君。キミはなぜ一休が芸能関係に詳しいか知ってるか？

姫川 え？ ただの芸能オタクじゃないってこと？

石家 一休は見かけによらず熱い男なのさ。

一休 昔の話はよせ。

石家 昔の話をした方が事件の解決は早まるだろ？

姫川 どーゆーこと？

一休 じゃあせめて俺から話をさせてくれ。

石家 そうだな……。ワトソン君書記を。

姫川 え？ はい。

姫川 ホワイトボードへ向かう。

一休 ……うさちゃんに話したことは無かったが、俺の母親は女優だったんだ。一世を風靡したってほどじゃないが、そこそ売れてたし、人気もあった。俺は母親のことが幼い頃から自慢だった。特に母子家庭だったから父親を知らない俺にとって、母親は全てだったんだ。俺が刑事になったときも誰よりも喜んでくれたのも母親だった。俺は心底母親のことが好きだった。でも11年前の夏……それは起こった。

姫川 ……もしかして。

一休 ……。

石家 （一休が自分から言えないのを察して）警察には自殺として処理された。だが一休には信じられなかった。遺書も無かった。動機も考えられなかった。

一休 俺は必死で事件の真相を突き止めようとした。主も協力してくれた。そしてたどり着いた。

石・一 自殺偽装のトリックに。

姫川 それで……？

一休 そこまで。それ以上は何もわからなかった。トリックがわかってても犯人が特定できなければ、警察としての捜査はできない。

石家 いや、犯人はわかっていた。

一休 スカビオサ。

姫川 え？

石家 そういう名の花が、一休の母親が殺される1週間前に届けられていた。



姫川 ……じゃあその事件も「フローラルプランナー」の仕業？  
石家 『彼は犯罪界のナポレオンだよ、ワトソン君。この大都会の半分の悪事、ほぼすべての迷宮入り事件が、彼の手によるものだ。』……今ホームズがこの世にいたなら間違いなくそういうだろう。

姫川 11年前、フローラルプランナー、女優を殺害。（ホワイト

ボードに書き込む）

一休 都市伝説のために警察は動けない。

石家 だったらキミも警察を辞めたらどうだ？

一休 だからお前は警察を辞めたのか？

石家 さあ、どうだろうな。

姫川 じゃあ今回の事件もトリックを解いても……。

石家 それはどうか？

一休 今の俺には、あのときには無かった地位がある。後、金もある！（姫川の肩をたたく。）

姫川 部下の金をあてにすんな！

一休 うさちゃん俺の部下である以前にお嬢様なんだ。そこんとこ宜しく頼むよ！

姫川 調子のいい……。

一休 そして名探偵の頭脳も健在だ。

石家 もちろん。そして今はあの時わからなかったことがわかる。

一休 何？

姫川 何がわかるの？

石家 ワトソン君、私の職業は何だね？

姫川 庭師。

石家 そう、庭師。……11年前のスカビオサ、花言葉は「未亡人」。

一休 を生んですぐ夫を亡くした女優に贈られた。今回のサンダーソニア、花言葉は「望郷」。母を亡くした俳優に贈られた。いわば餞の言葉。「フローラルプランナー」の实在を裏付けるものといってもいい。やつは意図的に花を贈っている。その人その人ひとりひとりに合わせて。

一休 未亡人……望郷……花言葉。

姫川 今回の事件は間違いなく「フローラルプランナー」の仕業！

姫川、ホワイトボードに今回の情報を書きなぐる。

姫川 上原優也。首吊り自殺。サンダーソニア、「望郷」。びしょぬれの床。犯人……。

一・姫

「フロールプランナー」。

石家

面倒くさいけど、すべてわかった。

一・姫

え？

一休

本当か？

石家

ワトソン君！

姫川

え？

石家

ちよつと。

石家、姫川に耳打ちする。

石家

頼んだぞ。

姫川

はいはい。

一休

俺には教えてくれないのか？

石家

『私はいつも、友人のワトソンに対しても、また知的な興

味を抱く人には誰に対しても、私のやり方を残らず説明すること  
にしているんだ。』

一休

種明かしは慎重に……ってことか？ このホームズ気取り

が！

姫川

じゃあ早速現場に行くから。

一休

宜しく頼む。

姫川、去る。

一休

やっぱり現場には行かないんだな。

石家

私は彼女の現場検証能力を高く評価しているんだ。現場は

もう面倒くさいよ。

一休

本当にそう思ってるのか？

石家

どういふことだ？

一休

お前がそんな風になったのは、お前、ほら、10年前に……。

石家

面倒くさいな。何が言いたい？

一休

昔はそんなに面倒くさがりじゃなかった。

石家

そうでもないだろ？

一休

俺と一緒に現場を駆け回ってた時はお前一言も面倒くさい

なんて言わなかった。

石家

君と青春しながら刑事やんのが面倒くさくなっただけだ。

一休

あの頃の情熱はどうしたんだよ！ 俺はお前の名言を忘れ

ないぞ！ 「事件は会議室で起きてんじゃない。現場で起きてん

だ！」って。あれはかっこよかったなあ。惚れそうになったよ。

いや別にお前のけつには興味ねーけどさ。

石家 それは私の名言ではない！ 面倒くさいな下ネタ親父。君  
がいると部屋が汚れる。出て行きたまえ！  
一休 なああのときみたいにかれよ。「レインボーブリッジ  
封鎖できません！」ってさあ！  
石家 封鎖しようとしたことないわ！  
一休 まあ俺のレインボーブリッジも封鎖できないがな！  
石家 帰れ！

幕が閉じる。

### ○第三章

舞台前面。  
歩く姫川を副日が呼び止める。

副日 姫川さん！  
姫川 さん？  
副日 姫川 兎子さんですよ？  
誰？  
副日 突然すいません。私、フリーライターの副日愛鈴と申しま  
す。

名刺を渡す。

姫川 副日愛鈴……。何の用？  
副日 いくつかお聞きしたいことがございまして……。  
姫川 何？  
副日 あなたの父様についてのことなんですが。  
姫川 え？  
副日 あなたのお父様とは少し知り合いでして……。  
姫川 だから？  
副日 5年前、あなたのお父様が事故でお亡くなりになったこと  
について独自に調べているんです。……この場でかまいませんか  
姫川 ら少しお話を聞かせていただいても……。  
副日 ……わかった。少し。  
姫川 ありがとうございます。それでは早速伺いたいです  
が、お父様が亡くなられる1週間位前に、ご自宅に花が届けられ  
姫川 ……！！！！

副日 届いていましたか？  
姫川 「フローラルプランナー」？  
副日 知ってらっしゃるんですか？

姫川 ええ。  
副日 花！ 届いてましたか？ 何か「フローラルプランナー」  
につながるようなものってありましたか？ 姫川さんは刑事さ  
んですよね？ 何か警察内のみで公表されてるデータとかって  
存在するんですか？

姫川 ちよっ落ち着けて。（ピコハンで叩く。）  
副日 すいません。……何か手がかりになりそうなの……。

姫川、首を振る。

姫川 私は父の事件の真相に近づくために刑事になった。だって  
信じられないじゃん。階段から落ちて死んだなんて。でも「フロ  
ーラルプランナー」のことを知ったのもつい最近。申し訳ないけ  
どあなたの役には立てない。  
副日 ……そうですか。

姫川、副日にぐいと顔を近づける。  
以下、ピコハンで副日をぼんぽんたたきながら。

副日 何するんですか！

なぜ？

え？

副日 なぜ副日愛鈴は「フローラルプランナー」を追うの？

副日 それはジャーナリストとして。

姫川 ウソだ。

え？

副日 さっきあなたフリーライターって言った。

は……はい。

姫川 こんな眉唾もんの事件追いかけて金になるわけない。

……。

副日 この事件を追うためにフリーになったとか？

え？

姫川 あなたと「フローラルプランナー」の間には何かしらの縁

がある。

副日 ……。

姫川、踵を返す。

姫川 答えてくれたら私も、「フロールプランナー」につながり  
そんな人物を紹介してあげる。

副日 ……本当ですか？

姫川 ウソはつかない。

副日 ……。私も、私も姫川さんと同じで、事件の真相に近づく  
ために記者になったんです。

姫川 あなたの身近な人が「フロールプランナー」に？

副日 はい。

姫川 それは……。

副日 私の両親。私が15歳の時、車で崖から落ちたんです。警察  
は事故だって言うけど私は信じない！ 2人ともペーパードラ  
イバーなのに車に乗ってたこともおかしいけれど、2人があの日そ  
の場所にいたこともおかしいんです！ 私は記者になって、事件  
について調べました。始めは情報量が多いほうがいいと思って大  
手の雑誌社に……。でも「フロールプランナー」のことを知っ  
てからは、もう他の仕事も手につかなくて、大手にいたら私は自  
分のやりたいことができない！ だからフリーになったんで  
す！

姫川 ……。

副日 ……。すいません、少し取り乱しました。

姫川 ……よしっ。あなたを信じよう。私もちようど記者の情報  
網がほしかったとこなの。紹介してあげる。真相を解明できるか  
もしれない男を！

副日 本当ですか？

姫川 うん。

副日 その人って……。

姫川 おそらく県警一の名探偵。

副日 県警一？

姫川 あっ正確には元県警一か。

副日 どういうことですか？

姫川 会ってからの楽しみ！（変顔）

副日 ……姫川さんはどうして私が「フロールプランナー」を  
追う理由を知りたがったんですか？

姫川 人を知るには、まずその過去を知れ。人の愛は信じられな  
いけど、憎しみなら信じられる。

副日 それって……。

姫川 あなたが「フロールプランナー」に私怨ある人物なら信  
用できるってこと。さあ、行きましょう。

副日 はい。

動き出す2人。

幕が開く。

椅子に座る石家と対峙する小南。

石家 ……勝手に入ってきてもらっては困る。

小南 ちゃんとお兄様に許可は得てますよお。

石家 酒臭い。

小南 すいませんねえ。飲んできたばかりでして。

石家 姫川兔子に何の用だね？

小南 なくにを言ってるんですかあ？ 僕が用があるのはあなた

ですってばあ。石家主さん？ はじめまして。僕、「週刊ウェン

ズデー」の記者の小南渡入と申します。

石家 私に？ では帰ってくれたまえ。マスコミの取材はお断り

だ。

小南 まあまあ、そー言わずに。プレゼントも持ってきたんです

から。

石家 プレゼント？

小南 そうなんです。ぜひお渡ししたいものがありまして……。

石家 何だ？

小南 お花。

間。

小南 (ピエロの鼻を取り出して) 僕のお鼻をプレゼントお！ ア

ンパンマンか！ なんちって。

石家 ……。

小南 つまらなかったですかあ？ それともびっくりしてるんで

すかあ？

石家 帰れ。

小南 隠さないでくださいよお。知ってるんですからねえ。あな

たが「フローラルプランナー」の正体を暴こうとしている探偵さ

んだってことは。

石家 私は姫川家の庭師だ。

小南 またまたう！ 聞きましたよお。何でも椅子に座ったまま

現場に行かずに事件を解いちゃうとか？

石家 ……。

小南 何で知ってるんだうって顔ですね。聞いたんですよ、あな

たの部下から。いえ、正確にはあなたの部下の恋人から！

石家 森阿茶讓か。  
小南 はい。  
石家 ……しかし彼は私が「フロールプランナー」を追っていることまでは知らないはずだ。  
小南 やっぱり追ってらっしゃるんですね。「フロールプランナー」！  
石家 ……。帰りましたまえ。私はやはりマスコミは好かん。  
小南 鎌をかけたことは謝ります。でも僕は「フロールプランナー」について知りたいだけなんですよ。  
石家 なぜだ？ そんな都市伝説みたいな事件を週刊「ウエンズデー」の記者が追いかけて得があるとは思えない。  
小南 ……惚れた女のためって言ったら笑います？  
石家 笑いません。  
小南 それはありがたいです。  
石家 だが信用もせん。私は人の愛は信じていない。憎しみなら信じられるがな。  
小南 ……女のためでなく復讐のためなら信じられるってことですか？  
石家 そういうことだ。わかったら帰りましたまえ。  
小南 なあんか石家さんって僕の想像と違う人でちよっと嬉しいですねえ。  
石家 どんな人間だと思っていたのかね？  
小南 もっと正義感の強いまじめな男だと思ってたんですけど。  
石家 ふん。  
小南 だって警察で解決できなかった事件を元刑事である人が、現職の刑事を味方に付けてものの見事に解決しちゃうんですよ。  
お？ それも話を聞いただけで。創作上のヒーローかなんかみた  
いじゃないですか。  
石家 シャーロックホームズがヒーローだとしたら私はヒーロー  
かもしれないな。  
小南 石家さんはあ。ヒーローって信じているんですか？  
石家 コカインやモルヒネを使うホームズがヒーローならばな。  
小南 ヒーローですよホームズは。ヒーローって大体無敵じゃないですかあ？ ホームズにしても、ウルトラマンにしてもスーパーマンにしても。僕そーゆー主人公キャラに感情移入できないんですよねえ。むしろ怪獣を応援したくなっちゃうんです。  
石家 私は主人公キャラだがな。  
小南 いやいや。僕あなたになら感情移入できそうですもん。  
石家 どういう意味かね？  
小南 そのままの意味です。

視線を交錯させる2人。  
そこへ副日と姫川が入ってくる。

姫川 あれ？ 珍しい。石家にお客さん？

石家 いや。今帰ってもらったところだ。

小南 折角ですからもうちょっとお話ししようよ。

副日 渡入さん……。

小南 やあ。

姫川 あれ？ 知り合い？

副日 あっ。はい。先輩なんです。

姫川 そーなんだ。偶然。あっ石家。この人仲間にするから。

石家 何？

姫川 記者の力も必要かなあって。

小南 ちようどいいですねえ。僕にも協力させてくださいよ。

姫川 なーんだ。石家も私と同じこと考えてたんだ。

石家 そうではな。

小南 (遮って) そうなんですよー。それで今日はお伺いしたんです。

姫川 石家さんに協力するために。

副日 この人、フリーライターの副日愛鈴。

副日 副日です。宜しく願います。

石家 副日愛鈴？

間。

石家 トイレに行く。適当に話をしてくれたまえ。

姫川 え？ はーい。

石家、席を立つ。

副日 渡入さん、何でここにいますか？

小南 「フロールプランナー」を「ウエンズデー」で取り上げ

ようと思っ

副日 え？

小南 副日君には悪いけど僕のほうが先に記事にさせてもらうよ

お？

副日 どうして……ですか？

姫川 立ち話もなんだから座ったら？

小南 じゃあお言葉に甘えて。

副日 どうしてですか？！



姫川 おおっ。  
小南 そんなに怒るなよ。僕が何を取り上げようと自由だろお？  
副日 あなただったんですね。  
小南 え？  
副日 ここ最近、私の取材に行く先々でいろんな人に「もうその件は大手さんにお話したから。」って言ってお話が聞けなかったんです。先輩が……先輩が口止めしてたんですか？  
小南 ライバルは潰さないかねえ？  
副日 どうしてっ！ どうしてそんなことするんですか！ 私の邪魔しないで下さい！  
姫川 はいはい。そこまで。事情はなんとなく飲み込めたけど、今は仲良くしてねーむぎゅっ。（変顔）  
副日 あっ。すいません。  
小南 姫川兔子ちゃん、ね。はじめまして。僕、「週刊ウェンズデー」の記者の小南渡入。よろしくね。  
姫川 よろしく。  
小南 なんかに想像してたより田舎くさいかんじだね。  
姫川 はあ？ 喧嘩売ってんの？  
小南 いやいやあ。いい意味で。  
姫川 いい意味の田舎くさいがあるか！  
小南 お嬢様お嬢様してないって意味さ。副日君もそう思うだろう？  
副日 ……はい。  
姫川 お嬢様は疲れるから。  
小南 おもしろい。記事になるくらいおもしろいよお。あの森阿茶譲とつきあってるって話題性もあるし、芸能界デビューできちゃうんじゃない？  
姫川 まあ県警一の美人刑事だから……あつ、今の言い方ウソ。やばいあいつに影響されてる！  
小南 はははは。よくわからないけどおもしろいよお。27歳にはとても見えない。高校生を相手にしてるみたいだ。  
副日 えくくくく！ 27歳？ 見えない！  
姫川 まあね。  
小南 副日君、取材の相手のことぐらい前もって調べときなよお。キミはいつも少し抜けてるんだあ。気をつけたほうがいいよお。副日 余計なお世話です。

そこへ一休が駆け込んでくる。

一休 良かった！ 良かったぞ！  
姫川 何勝手に家入ってんだよ！（ピコハン）不法侵入でひっば  
るぞ？

一休 いやあつい興奮してしまっただけ。いや、別に変な意味では  
ないぞ？

姫川 わかったから。

一休 おや、この人たちは？

姫川 新しい仲間。記者の小南渡入と副日愛鈴。

小・副 宜しくお願いします。

一休 どうも。県警一のイケメン。一休零と申します。

姫川 T H E 井の中の蛙。

一休 どういう意味かね？

姫川 それよりもどうしたの？

一休 そうだそうだ！すごいぞ。

姫川 何？

一休 だがまずこの間の事件からトリックを聞かせてもらおうか。

姫川 物事は順序ってこと？

一休 そうだ。

副日 この間の事件？

小南 上原優也の事件かなあ？

一休 鋭いね。その通りだよ。いやあ頼もしい仲間ができたなあ。

副日 上原優也の事件のトリックがわかったんですか？

姫川 じゃあ説明するか。

姫川、ホワイトボードに首つりの絵を書く。

姫川 首つり……と。

副日 わ。

一休 リアルな絵を描くな！

小南 プリティにお願いします。

姫川 はいはい。

うさが首を吊っている絵を描く。

一休 それはそれで怖いわ。

姫川 結論から言うたびしよびしよの床。あれ。氷だったってわ

け。いい？ グラスからこぼれたと思ってた水は、氷が溶けてで

きたものだった。検証したところ、現場にはグラスに納まりきら

ない量の水があったことが発覚した。犯人は何かしらの方法で女



事故偽装」と書く。

姫川 15年前の副日の両親の事件にしても、5年前の私のパパの

事件にしても11年前の一休の母の事件にしても、「フロールプ

ランナー」は偽装トリックはしてもアリバイトリックはしない。

石家 殺し屋である「フロールプランナー」にとってアリバイトリックは必要ないからだ。しかし今回はそれをした。

一休 じゃあ今回の事件は、「フロールプランナー」ではないと？

小南 あるんじゃないですか？ アリバイトリックを使った理由が。

副日 でもいったい何のために？

姫川 やっぱ「フロールプランナー」の真似をしたやつの犯行と見るのが妥当か。

一同ため息。

石家 そういえば一休はなぜここに？

一休 おおっ！ そうだ！ そうなんだ！ 聞いてくれ！ 「フロールプランナー」と連絡を取る手段が見つかったぞ。

姫川 マジ？

小南 おお。

副日 すごい！

石家 よくやった。

一休 この間、主に「殺し屋なら殺しを依頼する窓口があるはずだ」って言われたからマル暴の知り合いをあたって調べてみたんだ。そしたらあるってよ！

姫川 あるんだ！

副日 じゃあうまくいけばそこから「フロールプランナー」とコンタクトを取れるってことですか？

石家 そうだ。

姫川 どこですか？

石家 それはどこなんだ？

一休 いやっ。だから。あるってことがわかったんだ。

姫川 は？

石家 一休？

副日 どこにあるかはわからなかったってことですか？

一休 うーむ。まあわかりやすいとそうだ。

一同一休を罵倒。

一休 喜べよ！ いいじゃないか！ 都市伝説級のものの実在が  
わかったんだからよ！  
石家 実在なら花言葉の時点では証明できている。  
一休 ……それも、そうだな。

一同ため息。

小南 僕、知ってますよお。どうやったら殺し屋「フローラルプ  
ランナー」に依頼できるのか。

一休 おおっ！

石家 何？

副日 渡入さん？

姫川 今度は本当？

小南 でも教えませうん。

石・姫 は？

小南、立ち上がる。

一休 何でだ？ 仲間じゃなかったのか？

小南 石家さん。僕ねえヒーローって信じたことないですよお。  
いるなら見て見たいなあ？

石家 どういうことだ？

副日 何を……考えてるんですか？

小南 僕ねえ、依頼してきたんですよ。「フローラルプランナー」  
に。

一休 何だと？

小南 だってそれが一番確実な方法だと思いませんか？

石家 まさか……。

小南 そのまさかですよ。石家主さん。さっき言ったじゃない  
ですか？お花をプレゼントするって。

石家 ……。

一休 このやろっ。よくも

一休、小南につかみかかる。

副日 どうしてそんなことを？  
小南 キミも知ってるだろう？ ただ単に「フローラルプランナ

「」について調べるんじや「ウェンズデー」では記事にできない。

姫川 それって。

小南 だからあ、面白いと思いませんか？ 史上最強の殺し屋VS

巷で話題の天才名探偵。

一休 てめえっ！

一休、小南を殴り飛ばす。

小南 うっ！！

倒れる小南。副日かけよる。

副日 渡入さん！

小南 うっ。あっ。……トイレ。

一休 あ？

小南 トイレ貸して下さい。吐きそう。

姫川 はあ？

一休 はっ！ 誰がお前なんかに。

石家 ワトソン君。貸してやれ。

姫川 でもっ。

石家 いいから！

姫川 はーい。

姫川、小南を連れて去る。

副日 すいません。多分あの人「フローラルプランナー」を信じてないから……。

一休 やつてくれたぜあの野郎。

石家 さて、話はわかりやすくなったな。花が私に送られてくる。

その後1週間以内に私が死んだら、私の負け。それまでにやつの正体を突き止めれば、私の勝ちだ。

一休 お前……。

姫川、クッキーを持って現れる。

一休 何だそれは？

姫川 こんなときこそゆっくりしようと思って。

石家 正解だ。

3人、クッキーを食べ始める。

姫川 副日も食べる？

副日 あっすいません。

一休 しかし、酒臭かったな君の彼氏は。

副日 彼氏じゃありません。

一休 そうなのか？　じゃあ俺と付き合おう。

姫川 手が早すぎる！（ピコハンで叩く。）

石家 彼は、あれか？　所謂アル中というやつか？

副日 アル中とはちよつと違うと思います。お酒を飲んでいないとダメなんですあの人。飲んでないと自分の言いたいこと言えないし、仕事も、何もできないんです。飲んでないと手も震えちゃいますし。

姫川 ああ見えて精神的に弱いのか。それは重度のアルコール依存症だ。

石家 君はあの男をどう思っているんだね？

副日 え？

一休 好きなのか？

副日 ……。『フローラルプランナー』の件が解決するまでは、恋愛なんてするつもりになりません。

姫川 じゃあ好きなんだ。

一休 くう。ふられてしまった！

副日 ……。復讐に生きた女は幸せになっちゃダメなんです。

姫川 そんなことない。絶対にそんなことない！　誰にだって幸せになる権利はある！

一休 そうだぞ！　愛鈴ちゃん！　幸せにならなきゃ！

石家 自分達を肯定しようと思死だな。復讐にしろ何にしろ、罪を背負う人間は幸せにはなれない。私も副日に賛成だ。

一休 俺は幸せになる！

姫川 私もなれる！　なる！　この件が片付いたら！　てか片付かなくても私は幸せになる！（ピコハンをかかげる。）

小南、戻ってくる。

小南 あっ、先ほどは、すいません。お見、苦しいと、ころをお見せして……。

一休 酔いがさめてる。

副日 渡入さん。

石家 まるで二重人格だ。

姫川 小南も食べる？

姫川クッキーを差し出す。

小南 わあああああああああああああああああああ！

小南、クッキーをはねのける。

姫川 え？

石家 何だ？

一休 幻覚か？

副日 先輩！

小南、そのまま椅子へ飛び込み爆睡。

姫川 困ったもんだ。

一休 愛鈴ちゃん、こいつ病院に入れたほうがいいんじゃないかい？

副日 でも、渡入さん、治療してお酒飲まなくなったら二度とちやんと仕事できないような気がして……。

石家 酒がないと仕事ができんというやつはたまに見るが、ここまでのほなかないないな。

副日 ですよね。弱い人なんですよ。  
で、これからどうするよ？

石家 この男は決して依頼の窓口をしゃべらんだろうな。  
そう？ ちよつとぼこれば……。

姫川 いや、この男には覚悟ができている。  
石家 殺されそうになつて肩もつの？

石家 いや、マスコミは大嫌いだが、こいつらにはこいつらなりの美学がある。

一休 お前のホームズ美学と一緒にか。

石家 そのホームズ美学によれば、今の心境は『パイプでたつぷり3服分というところだね、この問題は。ワトソン君、すまないが50分ほど話をしかけないでいてくれないか』というところだね。

上原優也の事件や過去の事件からまだ何かわかるかもしれない。

姫川 考える時間が欲しいってことか。

一休 じゃあ俺たちは引き続き依頼の窓口の方を調べるよ。  
副日 私もそれを調べます。同じ記者の先輩にできたんですから私にもできるはずです！

一休 それは助かる。どーも裏の連中つてのは警察には何も話したがない傾向が強いからな。



姫川 だから記者の仲間を引き込んだってわけ。  
石家 それはいいが……この男はどうする？  
一・姫 任せた！  
石家 おいつ！ 待て！

一休、姫川去る。

石家 まったく……。

副日 すいません。私が連れて帰ります。

石家 そうしてくれ。

副日 はい。

石家 ところで、君は10年前に書いた記事を覚えているかね？

副日 ……いえ？ 10年前にそんなに大スクープを取った記憶

はないです。

石家 そうか、では帰りましたまえ。

副日 ？。はい。

副日、小南をつれて去る。

副日 ほらっ！ しっかりしてください。

小南 う……ん。

石家一人考え込む。幕が閉じる。

## ○第四章

舞台前面。寝転ぶ小南と寄り添う副日。

小南 一昨日は醜態を、晒してしまつて、申し訳、ない。

副日 いいんです。

小南 すまない。

副日 何か食べます？ あつ昨日、ピーナツバターをたくさん  
もらっちゃったんです。これが美味しくて。毎朝食べても飽きな

い味ですよ？ 食べます？

小南 いや、遠慮、しておこう。

副日 そうですか。美味しいのに。

小南 君は、この事件から、手を引くべきだ。

副日 え？  
小南 君にできることはもうない！  
副日 まだそんなこというんですか？  
小南 君のことを調べた。

副日 え？  
小南 復讐は何も生まない。やめるんだ！  
副日 いやです！ 無理です！ ずっとそうやって生きてきたんです。

小南 ……どうしてもやめる気はないのか？  
副日 はい。  
小南 ……そうか。

小南、酒瓶をつかみ、ぐいと飲む。

副日 教えてください！ どうして渡入さんは急にこの事件に…

小南 僕はあ本当は誰よりも信じてるんだ。

副日 え？  
小南 つまりい。誰でもおヒーローになりたいってことさあ。はいっ。

小南、副日にワインの瓶とウイスキーの瓶を渡す。

副日 これは？  
小南 あげる。

副日 え？  
小南 さて、行かなきゃねえ。

立ち上がる小南。

副日 ……どこに行くんですか？  
小南 モリアーティ教授とご対談。

副日 え？  
小南 じゃあねえ？ 君はそんなにワインが好きじゃないけれど、そのワインはとっても美味しいから、飲み干すことをおススメするよお。

副日 え？  
小南 そのウイスキーは…：今度2人で飲もう。  
副日 ちよっと！ 先輩！  
小南 ついてこないでねん。

小南、去る。固まる副日、もらった酒瓶を眺める。  
副日が去り、小南と姫川が出てくる。

姫川 渡してほしいもの？  
小南 はい。これを。

小南、花を渡す。

姫川 この花は……？  
小南 スターチス。「フローラルプランナー」から石家さんへのプレゼントだよ。  
姫川 スターチス。  
小南 お願いしますねん。  
姫川 はい。  
小南 あっそれと！  
姫川 ん？  
小南 副日君を宜しくお願いします。  
姫川 ……。  
小南 ……。  
姫川 どうん！（ピコハンを小南に向けて）  
小南 え？  
姫川 死亡フラグ！  
小南 は？  
姫川 そのセリフ！ 気をつけろ！ 死ぬぞ？

小南笑う。

小南 そうかもしれませんね。最近ついてないんですよ。僕。  
車に轢かれそうになったり、上から花瓶が落っこちてきたり……。

姫川、ピコハンで小南をたたきまくる。

小南 何ですかいきなり！  
姫川 御祓い！  
小南 ……やっぱ君はおもしろい。  
姫川 そりやどうも。

姫川、副日去る。  
幕が開く。

舞台上に複数の雑誌が散乱している。  
石家と一休の元に姫川と副日がやってくる。  
姫川、ピーナッツバターを配る。

副日 おすそわけです。美味しいですよ。

一休 なぜ？

姫川 うまそー。

副日 病み付きになりますよ？ 最近毎朝食べてるんです。

姫川 でも何でこんなたくさん。

副日 昔の友達からいつぱい送られてきたんです。被災地に送る

うと思

か！ っって言われちゃったって手紙に書いてありました。

姫川 そりや確かにいらねーわ。

一休 まあラッキーだったな。

副日 でも1人だと食べ切れなくて。いろんな人におすそ分けしてるんです。

石家、もらってすぐパンを取り出し、バターを塗って食べる。

石家 うん。なかなかいけるな。

姫川 食うの早えーよ！

一休 うまそうだな。俺にもパンをくれ。

石家 ほーれ！

姫川 ほーれじゃねえよ！ そんなことより！ 石家！ 小南からだ。  
花。

副日 渡入さんから？

一休 それは？

姫川 スターチス。

副日 スターチス？

石家 スターチス……だと？

一休 スターチス？

石家 「ウソ」だ。

一休 は？

石家 ……スターチスの花言葉は「嘘」。つまり小南がやったことは「嘘」ということだ。

姫川 え？

副日 それって？

石家 ワトソン君は小南に直接花を渡されたんだろう？ 依頼人が直接、花を渡すなど前例がないはずだ。加えて花言葉は嘘。お

そらく依頼はしていまい。はったりだ。

一休 あの名。何のつもりだ？

姫川 副日 愛鈴のため？

副日 私？

一休 は？

姫川 両思いなんじゃない？ あんたら。

副日 え？

姫川 小南はあんたに、危険な仕事してほしくないんだよ、きつと。そんな風なこと言われたことない？

副日 （少し考えて）あ……。

姫川 決まりだ！

一休 うさちゃん見かけによらず男女の仲に敏感なんだな？ ちなみに俺も夜の感度はいいけどな。

姫川 死ね！

副日 渡入さんが……私のために？

姫川 あああああ！ 死亡フラグ。

一休 何だ急に？

石家 死亡フラグ？

姫川 仮説でしかないけど、「フロールランナー」への依頼は嘘でも、もし小南が「フロールランナー」にたどり着いていたら？

一休 まさか？

姫川 あいつさつき会ったとき言ってた。副日をよろしくってそりゃあ

一休 副日！ 小南に最後に会ったときなんか言われなかった？

副日 そういえば渡入さん……さつき会ったとき様子がおかしかったんです。こんなお酒渡されて……。

副日、ワインとウイスキーを出す。

一休 それは？

副日 プレゼントって言われて……。美味しいから飲み干せって……。

姫川 そんな安物。美味しいわけじゃないじゃん。

一休 なんでそんなものを……。

石家 そのワイン。空けてみる。

一休 え？

石家 飲み干せといわれたんだろ？ 空けてみる。

副日 でも美味しくないんですよね？

姫川 そーゆーことか。

姫川、ワインをあけ口をつけ一気に飲む。

一休 おうおうおうおういくねえ！

姫川 ふいー。まずい！

副日 飲んじやった……

姫川 じゃあ割ってくる。

副日 ええ？

姫川、去る。パリーンと大きな音がする。

石家 派手にやったな。

姫川、ノートパソコンとUSBメモリを持って戻ってくる。

姫川 あった！USB！

副日 USB？

一休 ワインの中に入れてたのか？ どうやって？

姫川 ワインじゃなかった。ただの水。手の込んだことするわ、全く。

一休 直接渡せばいいだろう！

石家 すぐには見られなくなかったんだろう？ 安いワインを選

副日 んだのもそのためだ。

姫川 じゃあこのウイスキーは？

一休 命の水。

一休 は？

姫川 ウイスキーの名前の由来。ゲール語で「ウイシユケ・ベアハ」。命の水って意味。

副日 それは……？

石家 端的に言えば「俺の命を預かっててくれ」ってことだろう。

副日 命を？

一休 小南はウイスキーについて何か言っていなかったか？

副日 今度……飲もうって。

姫川 生きてたら……ってことか。まずいな。うん。とりあえずこれ、見てみるか。

姫川、ノートパソコンにUSBを差し込む。  
覗き込むその他3人。

一休 何だ？  
副日 記事？  
姫川 芸能人の自殺とか事故死ばかり……。  
副日 私の両親の記事もあります！  
一休 俺の母親の記事もある。

間。

姫川 やばいぞこれは……。  
石家 間違いない。あの男、たどり着いている。  
一休 あの野郎、まさか1人で「フローラルプランナー」を何とかしようってのか？  
石家 やりかねん。  
姫川 小南が危ない！  
一休 愛鈴ちゃん！ 小南に連絡して！  
副日 はいっ！

副日、電話をかける。

音声 お客様がおかけになった電話番号は現在電波の届かないところにおられるか……。  
副日 つながりません！  
一休 助けようにも、俺らには犯人も場所もわからねえ。  
副日 なんです。渡入さん……。  
姫川 まだそうと決まったわけじゃあ。  
石家 いや、十中八九そうだろう。  
副日 あの人が命かけることないのに！ 不幸になるのは私だけでいいのに！ 何で！ 何でよ！  
一休 おいつ主！ 何とかなんねえのかよ！  
姫川 石家！  
石家 ……面倒くさいけど、全てわかった。  
姫川 ……本当に？

石家 ゆっくりとうなずく。幕が閉じる。  
小南 ふらふらと舞台前面に出てくる。  
幕を開き中へ入っていく。  
幕が開く。  
舞台上には雑誌に加えて仮面が散らばっている。  
後ろを向いて椅子に座っている森阿茶。  
その他4人は静止。

小南 どうも。わざわざすいませうん。

森阿茶、振り返る。仮面をつけている。

森阿茶 1週間前にインタビューしたばかりじゃないですか？  
どうしたんです？ それもマネージャーやスタッフ抜き取材で、素の僕が見たいなんて。

小南 いえね、この間お会いして、すっかりあなたのファンになっちゃったんですよ。独占取材させていただこうと思いましたねえ？

森阿茶 構いませんけど、何も出てきませんよ？

小南 僕はあなたのおファンになっちゃったんですよ。で、あなたの経歴を徹底的に調べさせていただきました。

森阿茶 はあ。  
小南 結論からいうとあなたは他人の不幸を踏み台にして今の地位に昇りつめている。

森阿茶 偶然ですよ。やめてくださいよ。僕が死神なんかみたいじゃないですかあ。

小南 そう、あなたは死神です。11年前あなたがブレイクするきっかけとなったテレビドラマ『1001回目のプロポーズ』のヒロインは当時人気女優だった深野温子が演じる予定でした。しかし深野温子はその直前に事故死。代わりに抜擢されたヒロインの事務所のバーターで見事まさかの主演に大抜擢！ さらにっ！

あなたが昔所属していた劇団の演出家夫妻が15年前に事故で崖から落ちてなくなっている。関係者の話によると2人はあなたに脇役ばかりをやらせていたとか。

森阿茶 だから何なんですか？ 何の取材ですか？

小南 覚えているだろ！ その演出家夫妻には15歳になる娘さんがいた！ 君のせいで、彼女の人生はめちゃくちゃだよ。  
森阿茶 事故ですよ？ 僕が殺したみたいな言い方やめてくださいよ。

小南 君が殺したんだ。君が「フロールプランナー」だ！  
森阿茶 ……。

小南 僕が持つてるのは状況証拠だけです。が、どうですか？ 十分信じるに足り得る事実でしょう？  
森阿茶 ……。



小南 おそらく初めて殺しをしたのは15年前でしょ？ あなたは当時17歳。そして目覚めてしまったんでしょ？ くだらない殺し屋とやらに。

森阿茶、仮面を外し、別の仮面をつける。

森阿茶 お前、何しにきたんだよ！ 帰れよ！

小南 あなたを暴きに來たんですよお？

森阿茶 てめえ殺すぞ！

小南 はいっ！ それは本当のあなたじゃない。

森阿茶 は？

小南 どーもインタビューのときから引つかかってたんですよ。あなた常に演技をしている。

森阿茶 何言ってやがる。

小南 殺人ってかなり精神的に苦痛になるものなんでしょう？

情緒不安定になる方が多いみたいですよ犯罪者の方って？

森阿茶 だから俺はやってねえんだよ！

小南 殺人によって別人格が生まれてしまったりすることもあるそうです。

森阿茶 何が言いてえ！

小南 演技。しないでくださいよ。

森阿茶、仮面を外し、別の仮面をつける。

森阿茶 お願いです小南さん、記事にはしないで下さい。本当に僕、やってないんです。記事にされたら僕、疑われちゃいます。確かにいろんな偶然が重なって僕は今、俳優としてやってこれてるのかもしれないです。でもっ本当に偶然なんです。信じてください！

小南 はいっ！ それも本当のあなたじゃない。

森阿茶、仮面を外し、別の仮面をつける。

森阿茶 はははははははははははははははは！ よくわかったな。

そうだ！ 私が「フロールプランナー」だ！

小南 それも本当のあなたじゃない！ あなたはそんなに強い人間じゃない！

森阿茶、仮面を外し、別の仮面をつける。

森阿茶 あなたの望みは何ですか？ 私の死ですか？ 金ですか？

小南 謝罪だ！

森阿茶 え？

小南 本当の君に謝罪してもらいたい。世間に対して、被害者一人ひとりに対して。

森阿茶 正義感が強いんですね？

小南 ヒーローに、憧れててね。

森阿茶 ヒーロー？

小南 森阿茶譲。随分と粋な芸名をつけたもんですね。ホームズの宿敵、犯罪界のナポレオン、モリアーティ教授に由来してるんでしよう？ でもいくつもの仮面をかぶり続けるあなたはどちらかというところ怪人二十面相ですねえ？

森阿茶 ……。

小南 あなた、父親に虐待を受けていたそうじゃないですか？ その影響ですかねえ？ 他人の前では常に演技をするようになってしまった。その場その場で必要とされる存在になろうとしていた。殺人を犯してから更にそれがひどくなった。しかし殺人衝動も止められない。違います？

森阿茶、仮面を外す。

小南、酒瓶を逆さにし、中身を流していく。水の流れる音。

森阿茶 君じゃないんだ。

小南 はい？

森阿茶 僕が待っているのは君じゃないんだ。

小南 やつと素顔をさらけ出したと思ったら何を言ってるかわからないんですけどお。

森阿茶 僕がなぜ殺す相手に花を贈ると思う？

小南 ……。

森阿茶 悲劇の演出だよ。弔いの意をこめて僕が贈った花の存在に被害者の遺族達は気づく。そして憎しみは連鎖する。存在するかわからない僕を恨み、無能な警察を恨み、世界を恨む。種はまかれやがて新たな悲劇の花が生まれる。残されていった者たちによって悲劇は完成する。僕はカタルシスを感じることができる。

小南 開き直ってべらべらしゃべりだしたあつてことはアレだねえ、僕のこと殺すつもりでしょう？

森阿茶 そうだよ。君はここで死ぬんだ。（ナイフを取り出す。）

小南 それはどーでしょうか？　じゃーん！　これはなんでしょ？

小南、酒瓶を森阿茶に向ける。

森阿茶 それは？

小南、ライターを取り出す。徐々に暗転。

小南 知ってますかあ？　アルコール度数40を超えるお酒って燃えるらしいんですよ？　そんでもってこの花酒ってお酒は60度。どうなるかわかりますう？

森阿茶 やめろ！　こんなの美しくない！　これは悲劇ではない！　こんな終わり方！　僕は認めない！　認めないぞ！

暗転。ライターの火がつき、舞台が赤く染まる。

小南　　ざまーみろ。

再度暗転。

## ○第五章

再び石家、副日、一休、姫川の四人へ。  
舞台はそのまま。小南と森阿茶はいない。

姫川　　うそ……。

長い沈黙。

石家　間違いない。「フローラルプランナー」は森阿茶譲だ。  
姫川　うそだ。今度ばかりは名探偵の推理も外れ。残念ね。  
石家　認めたくないのはかまわない。だが、それ以外にありえない。

一休　俺も……信じられねえが、考えてみればあいつの成功は不自然すぎる。  
姫川　……。

副日 渡入さんは……渡入さんはそいつのどこにいるの？

副日、去ろうとする。一休が引き止める。

一休 どこへ行くんだ！ 森阿茶がどこにいるかもわかってないじゃないか！

副日 放してください！ 行かなきゃ、行かなきゃ渡入さんは！  
一休 落ち着け！ 愛鈴ちゃん1人じゃ何もできない！

副日 じゃあ警察は動いてくれるんですか！  
一休 すぐには無理だが、少し時間をくれれば……。  
副日 今はその時間が惜しいんです！

一休を姫川が蹴飛ばす。

姫川 行こう！ 副日！

一休 待て！ お前は今冷静になれてないんだ！  
姫川 冷静でいられるわけじゃないじゃん！ 自分の……自分の大切な人が、この先もずっと一緒にいたいって思う人が人殺しだったんだ。冷静でいられるほうがおかしいだろ！

姫川、副日を連れて去る。

一休 く……追うぞ！ 主！

石家 私は現場には行かない。

一休 お前こんなときに何言ってるんだ！ このままじゃうさちやんまで危ないんだぞ！

石家 私は行かない。

一休 ……お前を変えたのは奥さんの死か？

石家 関係ない。

一休 ウソつくんじゃないやねえよ！ お前が警察を辞めたのはそれが原因なんだろう？

石家 行かない。

一休 ちっ！ 行くぞ！ 主！（腕を引っ張る）

石家 私は現場には行かない。（振り払う）

一休 うさちゃんはどうなってもいいのかお前！

石家 ……

一休 どうなんだ！ 答えろよ！

石家 ……私は行かない。

一休、石家を殴る。椅子から崩れ落ちる石家。

一休 一生座ってな！

一休去る。

石家 （倒れたまま）私は現場には行かない……。行けない。

暗転。

幕が閉じ、姫川にスポット。

鳴り響く着信音。電話に出る姫川。

姫川 譲……。

森阿茶 今すぐ！ 今すぐ会いたい！ 早く来てくれ！ 時間がな

いんだ！

姫川 ちょうどよかった。私も……。譲に話したかったことがあるの。場所を教えて？

森阿茶 兎子と僕が初めて出会った場所で、僕は君を待ってる。

姫川 ……わかった。

幕が開く。待つ森阿茶。

森阿茶 覚えてないって言ったのに……。兎子らしいな。

姫川 でしょ？

副日 渡入さんは！ 渡入さんはどこにいるの！

森阿茶 できれば……。1人で来てほしかったなあ。

副日 答えて！

森阿茶 知らない。僕が待っていたのは彼じゃない。

副日 何を……。言ってるの？

森阿茶、仮面を付ける。

森阿茶 お前はここに必要ない！ 小南渡入！ 死んださ！ あい

つは死んだ！ 俺が殺した！ 俺の邪魔をするからだ！

副日 そんな……。私は……。間に合わなかったの？ 渡入さん……。

崩れる副日。

姫川 どうして？ どうして譲が「フローラルプランナー」なの？

森阿茶 僕は君と出会う以前から、「フローラルプランナー」なんだよ。

姫川 何でなの？ 有名になるため？ お金のため？ あなただつたら自分の実力で……！

森阿茶 病氣なんだよ……。不治の病さ。

姫川 え？

森阿茶 僕と兔子が初めて出会つたこの場所……。

姫川 薔薇園……。今はもうなくなつちやつたけど。

森阿茶 僕にはまだ見えるよ！ ここに咲く無数の薔薇が！ 君ならで誰にか見せむ薔薇の花色をも香をも知る人ぞ知る。あの時本当にそう思つた！

姫川 どういう……こと？

森阿茶 君の前だけだ。君の前だけで僕は僕でいられた！ 本当の！ 素の自分でいられた！ 演技じゃない僕自身でいられたんだ！ 君に出会うまでは僕はこの世にいなかった！ 君に出会えたから僕は生きているんだ！

姫川 本当に？ 本当に素のあなただったの？ 信じられない！ 無理だよ！ 私もうあなたを信じられない！

森阿茶 僕も信じられないんだ。

姫川 え？

[illegible]

姫川 ……譲。

森阿茶、仮面をつけたまま。

森阿茶 君には見える？ この美しい薔薇たちが！

姫川 ……。

森阿茶 これが君へのプレゼントだよ。

姫川 私を…殺すの？

森阿茶 もう、とめられないんだ。（銃を姫川に向ける。）

姫川 ……。私も、とめられない。あなたは私の仇だから。（銃を

森阿茶に向ける）

森阿茶 仇？

姫川 5年前、パパを事故に見せかけて殺したのはあなたね。

森阿茶 パパ？ 知らない。

姫川 ウソつかないで！

森阿茶 嘘じゃない！ 僕は君の仇になるようなことはない！

姫川 でも父が死んだとき私とあなたは出会っていなかった。

森阿茶 違う！ 私は自分が殺した人間は全て覚えている。嘘じゃ

ない！

姫川 無理だよ。信じられない。

森阿茶 これは1つの悲劇だよ。もういい。さようなら。姫川 兔子。

手をたたく音。

石家 なうにが「フローラルプランナー」だ！ そーゆーことは週刊少年ジャンプでやりたまえ！

石家、一休出てくる。以下石家、顔色が悪く、息も荒い。

副日 石家さん、一休さん。

森阿茶 邪魔をするなあああ！ もうすぐなんだ！ もうすぐ！

悲劇は完成する！ 私はカタルシスを得ることができるんだ！

どうして、ここが？

石家 GPS機能だ。心配性の今は亡き君の父が残した遺産だな。

一休 パパの命令で君の警察手帳に仕込んであったんだ。

うそ。

石家 さて、森阿茶君。私は君に会って確信した。

森阿茶 何を？

石家 本当の君だよ。君は本当の自分を見失っているようだから

森阿茶 お前に教わることはない！

森阿茶  
……○

末期の肝硬変……。

姫川  
決着？

石家 君に……殺されたがつてるんだよ、その男は。

森阿茶　でたらめを言うな！　僕は「フローラルプランナー」とし

て姫川兎子を殺すんだ！

姫川  
讓  
！

森阿茶  
……○

姫川　譲がやるって言つてた癌の夫を持つ妻の話……。調べたんだけど、そんなの全く無かった。譲の作り話だったのね。気づいてあげるべきだった。楽にさせてくれていうサインだったんだ。  
 森阿茶　違う！　違う！　そうじゃない！　僕は！　僕は！　うっ！

森阿茶、吐血。

姫川  
え？

一休 静脈瘤の破裂だ！

**森阿茶** あっあっあつあつあああああああああああ！

森阿茶の仮面が外れる。

森阿茶　苦しいよ！　お願いだ！　早く！　早く！　撃つて！  
 つて！　僕を！　僕を殺して！



姫川の銃声が鳴り響く。  
森阿茶倒れる。姫川がかけよる。

姫川 即殺すって言ったもんね。  
森阿茶 ありがたい……兎子らしいな。  
姫川 でしょ？（無理に笑顔を作る）

姫川、森阿茶を抱きかかえる。パトカーのサイレンの音が聞こえる。エンディングっぽい音楽が流れる。

一休 終わったな。  
副日 あ……渡入さん……。

小南、申し訳なさそうに現れる。  
以下無声。石家、副日、一休驚いた表情。  
副日 すぐさま、小南にかけよる。一言二言会話し、副日持っていたウイスキーを一口飲み、笑顔で小南に渡す。小南、笑顔で受け取り、一口飲む。抱きしめようとするができない小南。そんな小南を優しく見つめる副日。一休ここでやんなきゃいつやるんだよという表情。2人ゆっくり抱き合い、キスをする。  
照明が暗くなる。暗くなりきる直前に小南が倒れ舞台が赤に染まる。ウイスキーが横たわる。

一休 小南！  
副日 渡入さん！  
姫川 何で！  
小南 ……ごめん。副日君。やっぱり、僕は、ヒーローにはなれないみたいだ。

小南、目を閉じる。

一休 急いで救急車を呼べ！ くっそー！ 森阿茶の野郎！

一休、小南に心臓マッサージ。  
姫川、ケータイを取り出し救急車を呼ぶ。

副日 渡入さん！ 渡入さん！ 終わったのに！ 全部！ 終わったのに何で！ 何でよ！ 渡入さん！ 渡入さん！

続いて石家が過呼吸を起こす。

副日 石家さん！

一休 主！主！大丈夫か！どうなってんだちくしょう！

姫川 なにか袋を！

石家倒れる。

姫川 石家——！！

暗転。

## ○最終章

舞台前面。姫川。ピコハンをぼんぼんたたいている。  
その他の5人。手をつなぎ回りながら姫川の周囲を回  
る。

全員 薔薇の花言葉……「あなたを愛します」「愛」「美」「嫉妬」  
「あなたを尊敬します」「愛情」「温かい心」「照り映える容色」「私  
はあなたにふさわしい」「内気な恥ずかしさ」「恋」「情熱」「熱烈な  
恋」「愛を待つ」「一時の感銘」「わが心君のみが知る」「満足」「愛  
情の減退」「やきもち」「君のすべてが可憐」「美純潔」「気まぐれな  
美しさ」「無邪気」「爽やか」「内気な恥じらい」「私を射止めて」「戦  
争」「束の間の印象」「幸福な愛」「淡泊」「単純」「素朴」「美しさは  
あなたの唯一の魅力です」「恋の告白」「少女時代」「愛するには若  
すぎる」「心にもない恋」「秘密」「飾り気のない心」「あなたは希望  
を持ち得る」「貴方の幸福を祈る」「潔白を失ったために死を望む」

言い終わり、5人横並びに立つ。

姫川、一休に近づきピコハンで叩く。

一休 俺は必死で事件の真相を突き止めようとした。主も協力し  
てくれた。そしてたどり着いた。自殺偽装のトリックに。

一休しやべり終えて静止。続いて副日をピコハンで叩  
く。

副日　昔の友達からいっぱい送られてきたんです。被災地に送ろうと思っただけなんですけど、ピーナッツバターなんているか！　って言われちゃったって手紙に書いてありました。

副日　しゃべり終えて静止。続いて小南をピコハンで叩く。

小南　最近ついてないんですよ。僕。車に轢かれそうになったり、上から花瓶が落っこちてきたり……。

小南　しゃべり終えて静止。続いて森阿茶をピコハンで叩く。

森阿茶　嘘じゃない！　僕は君の仇になるようなことはしない！

森阿茶　しゃべり終えて静止。

姫川　今までありがと。あなたのやったことは許せないけど……。でもやっぱり私はあなたが大切だから。全部終わったら届けに行くよ。たくさんのお花を。

続いて石家をピコハンで叩く。石家無言のまま移動。

姫川　面倒くさいけど、すべてわかった。

音楽が鳴り始め、姫川と石家以外の4人が動き出す。姫川、小南は雑誌を破き、一休は花を散らかし、森阿茶は仮面を弄ぶ。姫川、石家に黒百合を渡す。

姫川　退院祝い。

石家　黒百合……。か。なかなか気の利いたことをするじゃないか。

姫川　よく、家に戻ってたな。

石家　私は姫川家の庭師だからな。

姫川　事件恐怖症。

石家　……。

姫川　医者が言ってた。血がダメな人はよくいるけど事件の空気がダメな人は初めてだって。過去に相当なトラウマがあるんだろうってさ。

石家　そうだな。

姫川　一休に聞いた。刑事を辞める少し前に奥さんが自殺したっ

て。あなたはその第一発見者だって。

石家　今でも時々夢に見るよ。彼女の悲惨な姿があの日から脳裏に焼きついてはなれない。やっぱりあるんだよ事件独特の空気ってやつが。その嗅覚が人一倍さえているんだろうな、私の場合。現場に行くたびに刑事が気絶するわけにはいかんだろう？

姫川　それが刑事を辞めた1つ目の理由。

石家　1つ目……ね。

姫川　黒百合の花言葉は、「恋の魔法」そして

石・姫　「復讐」……。

石家　黒百合は悲劇の花だ。「黒百合は魔物だよ。花の香りが沁み付いて結んだ2人は離れない。」まさに私にぴったりのわけだな。

姫川　さすが石家。私の言いたいこと伝わった？

石家　みくびるなよ。私が過去いくつの謎を解き明かしたと思っているんだ。

姫川　そうね。

石家　さて、ホームズからワトソン君への最後の課題だ。君の推理を、聞かせてもらおうか？

姫川　うん。……「フロールプランナー」は、2人いた。譲のやったことを利用して、罪を殺し屋になすりつけた男がいた。……石家！　あなただ！　あなたが2人目の「フロールプランナー」だ！

石家　なぜ、そう思う？

姫川　あなたは「フロールプランナー」の名前を借りて2人の人を殺害した。1人は小南。もう1人が私のパパ。私の仇は譲じゃなくてあなただった。

石家　2人……か。

姫川　私、思い出した。パパが階段から落ちた日、あなたはこの間と同じように、過呼吸で倒れて病院に運ばれたこと。

石家　そうだったかな。

姫川　だから絶対にあれは事件！　でも譲はやってないって言った。

石家　犯罪者の言葉を鵜呑みにするのかな？

姫川　譲にはあそこで嘘をつく必要が無い。5年前あなたはパパに花を届け、事故に見せかけて殺害した。さらに小南の方もあなたが言ったように譲にあの時そんな余裕は無かった。そうか。

石家　小南の死因はアナフィラキシーショック。小南はピーナッツアレルギーだった。あなたはそのことにいち早く気づきそれを利用した。前に小南がクッキーを拒否したことがあ

つた。あの1回で。

石家  
姫川

小南は死ぬ前にピーナッツなど食べていなかったが？

副日が食べてた！　そして小南と副日はキスをした！　それでアレルギー反応が起こったんだ！　副日の友達に成りすまして、ピーナッツバターを送りつけたのはあなただ！　県外のスーパーでピーナッツバターを大量購入していたあなたの姿が防犯カメラに残っていた！

石家  
姫川

2人がキスをするとは限らんだろう？

そう、ピーナッツはあなたの仕掛けた罠のひとつに過ぎない。現に小南は死ぬ直前の何日間か、毎日のように死にそうになってた。そこからわかることはパパに関しても同様に、幾重にも偶然の事故を装う罠をあなたは仕掛けていたってこと。そのうちの1つにはまってしまった。あなたが刑事を辞めた2つ目の理由は、「復讐」のため。

石家

お見事！　さすがワトソン君。……君はもう刑事として十分1人でやっていける。じゃあな。

石家去ろうとする。

姫川

待つて！

石家

何だ？　言っておくが私は捕まえられるぞ？　ピーナッツを大量購入しただけではなんの物的証拠にもならない。私がやるのは完全犯罪だけだ。

姫川

何で？

石家

何で？

姫川

いくら調べてもわからなかった！　私のパパや小南があなた

の奥さんの事件にどう関係してるのか？　何が……10年前に

何があつたの？

石家

……。

姫川

……。

石家

……。　答えろよ！　逃げんじゃねえよ！

姫川

完全犯罪とか言つて、結局逃げてるだけじゃん！　罪を受

け入れる覚悟がないんでしょ！　あなたは逃げてばかり！

奥さんの死から逃げて、現場から逃げて、自分の侵した罪から逃

げて！　酒の力に頼つても立ち向かった分、小南の方が何倍も

マシ！　おかしくなっちゃったけど、自分の罪と向き合い続けた

譲の方が何倍もマシ！　逃げんなよ！　石家主！

石家

……言ってくれるな姫川兔子。

姫川

逃げるなよ。

石家 君はこの世で一番の罪は何だと思う？

姫川 え？

石家 知らないことだよ。

姫川 知らないこと。

石家 罪を犯してもその罪の意識が無いことが一番の罪なのだよ。

姫川 君の父がそうだった。

石家 どういうこと？

石家 君の目に君の父がどう映っていたか知らないが、あの男は最低の男だ。自分の利益のために他人をあつさりときりすてる。

姫川 どういうこと？

石家 10年前、私の妻は姫川財閥系列の企業に勤めていた。君は

知らないかもしれないが、10年前、不正な金の流れがその企業で行われていた。妻は正義感の強い女だった。そして仕事にも誇りを持っていた。その彼女は会社を正し、クリーンな企業を目指すために動いたのだ。しかし彼女は……。

姫川 クビにされたの？

石家 解雇ならば全然マシだ！ 不正が明るみになることを避けられないと踏んだ君の父はそのほぼ全ての罪を彼女とその部下に被せたのだ！ かししいきなりそんなことをしても世間が信用するはずが無い。そこで君の父は金の力で週刊「ウェンズデー」に、でっち上げ記事を作らせた！ その記事を書いたのが……。

姫川 小南？

石家 違う！ 記事を書いたのは副日愛鈴！ あの女だ！

姫川 え？ 副日が？

石家 そうだ。

姫川 じゃあ何で小南が？ 小南が殺される理由は無いはずでしょ？

石家 あの女に10年前のことを聞いたら、知らないと言った。わ

かるか？ 副日は自分の書いた記事が何を引き起こしたのかわかっていない！ 罪の意識が無いんだよ！ そんな女を殺しても何の復讐にもならない！ なぜ自分の大切な人が理由無く奪われなければならぬのか、その悲しみを、苦しみを、悲劇を！ あの女は背負うべきなんだ！

姫川 そんな……。

石家 そして副日の書いた記事は世間に認知され、君の父はマスコミを味方につけ、その企業のクリン化に取り組んでいくなどと正義のヒーローぶって会見を行ったのだ！

姫川 それで……奥さんは。  
石家 妻は何度も言っていた。私のことはいい。でも部下たちを巻き込んでしまったことが一番つらいと。

姫川 ……  
石家 マスコミは世間を味方につけ何度も家に足を運んだ！ 妻が精神的に追い詰められていく姿は見えていられなかった。妻に何度も謝られた。巻き込んでしまつてごめんと。そしてある日限界がきた。妻は私を残して先に逝つてしまつた。……彼女は悪くない！ 彼女になんの非が有る！ 自分の正義を貫いた彼女が！ 正しいことをしてきた彼女が！ なぜこんな目にあわなければならぬ！ 私には、誓つた！ 必ず「復讐」してやると！ 彼女を死に追いやった全ての者たちに彼女と同等の痛みを与えてやると！ 私は刑事を辞め、庭師となつて姫川家に潜入した。一番「復讐」がやりやすい場所だと思つた。……私の妻も花を愛する人だつた。「フローラルプランナー」の存在は私にとつて非常に都合が良かった。

姫川 じゃあ何で？ 何で私を殺さなかつたの？ 父に罪の意識が無いのなら！ あなたの理論から言えば、殺されるのは私や兄のはずじゃないの？

間。

石家 君の父が君の兄をあまり大切に思っていないことはすぐにわかつた。

姫川 じゃあ私を殺せばよかったじゃん！ そうすれば、殺してくれれば、こんな苦しい目にあわなかつたのに！ こんなつらい思いをせずに済んだのに！ 何で捜査に協力したの？ 何で私に優しくしたの？ 何で事件恐怖症のくせに私を助けに來たの？ そうすれば疑われることもなく全部譲のせいにできたじゃん！ なんと！ なんとよ！ つらくなるだけじゃん！ なんと！ なんと！ なんと！ なんと！ なんと！ なんと！

姫川泣きじゃくる。

石家 ……すまない。

姫川 謝るな！

石家 ……本当は、始め、君を殺そうと思つたんだ。

姫川 じゃあ何で？

石家 できなかったんだよ……。君に、情が移つてしまつた。

姫川 何それ……？

石家 結局、私は、完全な復讐鬼にはなれなかったみたいだ。すまない。君を傷つけてしまった。

石家、深々と頭を下げる。

姫川 ……自首して。

石家 それはできない。

姫川 まだ復讐を続けるの？

石家 私は愛を捨てて、憎しみに走った。黒百合の花と一緒にだ。「恋の魔法」にかかり「復讐」を行えば待っているのは悲劇だけだ。いまさら後には引けない。

姫川 そんなことない！ 自首して！ 罪を償って！

石家 すまないがそれはできない。

姫川 私、今回のことでわかったの。復讐は悲劇しか生まない。わかってるんでしょ？ だったらやめよ。やめようよこんなつらいこと！

石家 ……。

姫川、鞆から花を出す。

石家 これは？

姫川 あなたの、奥さんから。

石家 何を馬鹿な。10年前だぞ妻が亡くなったのは。

姫川 あなたは奥さんが死んだ後、そこにいられなくてすぐに引っ越してしまったけど、その後で花が届いてたんだって。それがこの花。もちろん当時のものではないけれど、でもあなたの奥さんは絶対渡したかったはずだから……。

石家 これは、ガーベラ。

姫川 花言葉は、「我慢」と「前進」。そして「希望」。

石家 あ、あ……。

姫川 あなたならわかるでしょ？ どういうつもりで奥さんがこの花を贈ったか。くじけそうになったり、心が折れそうになったりこの花を見て、自分に言い聞かせるの。今は「我慢」のときなんだって。そして少しずついいから前を向いて「前進」していつてほしいって。そしたらそこには「希望」があるはずなんだから。黒百合の花が咲いてしまう時もあるかもしれない、愛と憎しみは表裏一体だから……でもそんなときはこのガーベラを見てほしい。奥さんはきっと自分ができなかったことをあなたにしてほしかったんだよ。幸せになつてほしかったんだよ！



石家　ふ…ふっふっふ！（自嘲気味に笑いながら泣く。）

その他4人倒れて動かなくなる。  
泣き続ける石家。

暗転。

姫川と一休。ざわざわと人の声が聞こえる中。  
姫川、旧薔薇園にて、ガーベラと黒百合を活ける。

一休　薔薇じゃないのか？

姫川　やっぱり私、永遠の愛とかって柄じゃないから。きれいごとだけじゃやっていけないもんねこの世界。

一休　それで、黒百合とガーベラか。

姫川　私さ、1つだけ、石家にウソついちゃった。

一休　…：時には嘘が人を救うこともある。

姫川　…：どうしても、自首してほしかったから。

一休　だが結局逃げちまったってわけか。

姫川　でも、多分もう「復讐」はしないと思う。ちゃんと、持ってたから。ガーベラの花。

一休　…：今頃あいつ何してるんだろな。

姫川　…：わかんない。

一休　もっと早くに、それこそ5年前に、あいつに花が届いたら、何か変わってたんだろうか？

姫川　そう、かもね。

一休　歯車ってのはうまく回ってくれないもんだなあ。

姫川　そーだね。

一休　…：。

姫川　ねえ。

一休　ん？

姫川　私達ってさ、幸せになれるのかなあ？

幕。